

# 2025 青森県生協連新春セミナー開催報告

1. 日時 2025年1月22日(水) 13:00~15:00

2. 場所 東奥日報新町ビル New`s3階ホールC

ハイブリッド開催

3. 参加 60名

コープあおもり (15名) 青森県民生協 (3名)  
 青森保健生協 (6名) 青森県庁生協 (2名)  
 津軽保健生協 (8名) 県労済生協 (3名)  
 県連役員・事務局 (14名) 日本生協連 (2名)  
 行政・協同組合間連携団体等 (6名) 講師 (1名)  
 会場参加 : 34名  
 WEB参加 : 26名

4. 当日プログラム

協同組合はよりよい世界を築きます

青森県民が安心してらせる地域共生社会づくりに向けて、  
力強い一歩を踏み出しましょう！

青森県生協連 **新春セミナー2025**

テーマ IYC (国際協同組合年) 2025に向けて、  
協同組合間の連携の可能性を考えよう！

1/22(水) 13:20 ~ 15:20 東奥日報新町ビルNew`s3階ホールC  
青森市新町2-2-11 (県庁北棟駐車場側向)

基調講演 協同組合ネット北海道の  
「ゆるやか」「あいのり」「やってみよう」を合言葉にした  
連携事業の展開について

講師：岸本敬一氏 協同組合ネット北海道事務局(北海道生協連事務局長)

「協同組合ネット北海道」は、2020年に  
発足しました。単一の協同組合では解  
決できない課題について、複数の協同  
組合の連携で解決し、持続可能な北  
海道経済と地域住民の生活向上に寄  
与することを目的としています。  
協同組合ネット北海道(16組増加入)  
では、月次の事務局会議開催を邁して  
組織間の相互理解を深め、「ゆるや  
か」「あいのり」「やってみよう」をテーマ  
に多くの連携事業を計画・実行し、活  
発な活動を展開しています。

【プログラム】

13:20 開会挨拶 県連管理会長  
13:25 基調講演 岸本敬一氏  
14:35 休憩  
14:45 グループ交流  
15:15 閉会挨拶 県連今副会長

お申し込みは、各生協・協同組合まで  
問合せ先：青森県生協連 017-766-1521

|       |  |
|-------|--|
| 13:20 | 開会挨拶 県生協連 会長 菅原 正  |
| 13:25 | 講演：協同組合ネット北海道の「ゆるやか」「あいのり」「やってみよう」<br>を合言葉にした連携事業の展開について<br>講師：岸本 敬一 氏 協同組合ネット北海道事務局<br>(北海道生協連事務局長) |
| 14:35 | 休憩   |
| 14:45 | グループ交流   |
| 15:15 | 閉会の挨拶 県生協連 副会長 今 淳一  |

司会：県生協連 専務理事 三浦雅子

5. 概要

2025年1月22日(金)、青森市東奥日報新町ビル New`s 3階ホールCにて、2025 青森県生協連新春セミナーを開催し、県生協連役員、県内6生協、日本生協連、JA 青森中央会、ワーカーズコープ、県地域生活文化課、わらび座より60名が参加しました。

6. 会長挨拶

菅原会長より、国連が定めたIYC(国際協同組合年)2025の意義に触れながら、全国の取り組みの中でも先進的な活動を推進している「協同組合ネット北海道」の「ゆるやか」「あいのり」「やってみよう」を合言葉にした連携事業の展開について学び、青森県内における協同組合間の連携の可能性を考えるきっかけとしましょうと挨拶がありました。



## 7. 基調講演

続いて、協同組合ネット北海道の事務局を務める、北海道生協連事務局長の岸本敬一氏よりご講演いただきました。



○最初に2020年6月に、北海道内の16の協同組合・関係機関により発足した「協同組合ネット北海道」の設立の背景と発足に至った流れについてご説明がありました。

- ・1985年からあった提携推進協議会では各団体の実践の報告・確認にとどまっていたが、JCA発足やSDGsにおける協同組合の役割強化の動きの中で、トップどうしがつながる中で考え方を見直し、山積みする地域の諸課題解決に向けた連帯組織を新設し、協同組合の新たな価値創造を行う必要があるとの結論にいたった。
- ・JA中央会、北海道生協連、北海道労金の3者による設立準備会が立ち上げられ、目的を「単独では解決できない課題を協同組合同士が連携して解決、北海道の経済と道民生活の向上を目指す」とし、テーマを「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」に設定した。

○続いて、「協同組合ネット北海道」の要である「事務局会議」の概要が説明されました。

- ・月1回開催する事務局会議は全16組織から1・2名で、その場で決裁可能な部長クラスに参加してもらっている。事務局会議の1週間前にJA中央会、生協、ろうきんによる3者事務局で案件を検討するという流れで、会議会場は各組織の持ち回りで、トップに挨拶をしてもらい、お互いを知る機会としている。
- ・事務局会議で提起する事業項目は「独自事業」（ネット主催）「連携事業」（あいのり）「情報提供」（連携事業模索）の3区分に分けている。自らを知ることが目的に、各組織の取り組みをアンケートでとりまとめポスターを作り、知事・副知事の挨拶に持参した。また、それぞれの組織の取り組みがテーマ別にわかるフローを作り、一緒にできることを見える化した。また、ホームページを作って、発信している。

○ネット北海道が主催する「独自事業」について紹介いただきました。

- ・協同学習・交流会：若手職員中心に入社5・6年目の職員対象に、協同組合理念の重要性やお互いの組織を知り、自身の業務の意義を再確認する。2組織で担当し、毎年変更。
- ・北海道大学講座（フレッシュマンセミナー）：北大と連携し、1年生を対象に「北海道のフィールドで協同組合を学ぶ」の集中講義。生協連、JA中央会、ホクレン、漁連、森連、コープさっぽろ、北大が担当事務局。
- ・協同組合就活サミット：構成団体の人事担当者の意見交換会を受けての合同採用説明会。生協連、JA中央会、コープさっぽろが担当事務局。



○各構成組織が行う事業への参加協力を行う「連携事業」について紹介いただきました。

- ・海のクリーンアップ大作戦：コープさっぽろが全道47カ所で同時開催。ネット北海道として1会場を担当して共同開催し350名参加（全道全体で11,000名、15・16の大学から参加）。2025年度は「海クリ」「街クリ」「森クリ」への連携参加を計画。

- ・事業系廃棄物再生利用（魚箱リサイクル）：ぎょれん×コープさっぽろが、プラスチック問題解決に向けて魚箱を素材とした「買い物カゴ」を共同開発、106店舗で1個400円で販売。
- ・社会貢献事業（子どもの居場所づくり）：子ども食堂15カ所の運営に70名の学生の関り。ひとり親支援企画（夏祭り）生協連×ろうきん×こくみん共済、はじめてのこども料理教室（年10回）コープさっぽろ×JA中央会×ホクレン×ぎょれん



○国際協同組合年に向けた取組みの1つとして、ギネス記録に挑戦することが紹介されました。

- ・「北海道まるごとカレーパン」：北海道素材で開発した「コク旨ビーフ」「贅沢スモークホタテ」を2月8日（土）さっぽろ雪まつり会場で8時間で1万個販売のギネス世界記録に挑戦  
★★★★★11,208個でギネス世界記録を見事達成！！★★★★★

## 8. グループ交流

会場参加者は6つのグループに分かれ、県連役員による進行のもと、「生協の好きなところ」をテーマに自己紹介した後、①岸本氏の基調講演を聞いて、やってみたいと思った事、②協同の力で実現する上で大事だと思う事について意見交流を行いました。それぞれ所属している生協や組織がちがうメンバーでの交流は、普段話し合えない事も話題となり大変貴重な機会となりました。



## 9. 閉会の挨拶

今副会長より、地域課題の解決に向けた取り組みが北海道内の16の協同組合によるネットワーク組織によって、「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」を合言葉に、豊かに展開されている事に大変感銘を受けました。青森県としても今回のセミナーを契機に、青森県民が安心してらせる地域共生社会づくりに向けて、力強い一歩を踏み出しましょう、との挨拶がされた。

## 10. 感想より

### ■基調講演を聞いて、やってみたいと思った事、感想。

- ・「協同組合ネット青森」を立ち上げる。/弘前大学に「協同組合を学ぶ」の講座を設ける。/子ども食堂をこどもとお年寄りのいこいの場に発展させ保育所を数カ所作る。/お互いの組織を知る学習会の開催。/クリーンアップ大作戦。
- ・今回の講演内容にもあった、単一の協同組合だけでなく、複数の協同組合で行える取り組みを青森県でもやってみたいと思った。
- ・「会議と話し合いに会社の役職者（トップ）も参加しないと何も進まない」という言葉に、まさしくその通りだと思った。ただトップが参加すればいいということではなく、若い人も積極的に参加することも大事だと思った。
- ・各生協でたとえば子育てについて取り組んでいる事を出し合って、県民にお知らせしたらどう



だろうと思いました。

- ・ 県産農畜産物を原料にした加工品を組合員に提供し、消費者の地産地消意識向上と、地域産業活性化につなげたい。
- ・ 地元高校生、大学生を中心に、青森県連が授業、体験会を行い将来「県内生協へ就職したい」と思ってもらえるような取り組み。
- ・ 県連内事業者が専門性を活かした「ゆりかごから墓場まで」相談会。
- ・ 1つの共同体で何かすることにより、集まった共同体になるということは、色々なことが広がって活動できるし困っていることも知恵も授かるんだなとつくづく感じました。
- ・ 他団体との連携で、自分たちでできないことができるということにもものすごく心がひかれました。何かできることはないのかと思いました。
- ・ 決まってからのスピード感がすごいなと思いました。
- ・ 大学生協とのかかわりがすばらしいと思う。/学生を大切にしていると思う。
- ・ いろいろなことができるんだなあと思いました。/「海クリ」できそう。「街クリ」「森クリ」でも。/採用も。人材は必要。
- ・ わかりやすく、県内でも取り組んでやれたらと思います。
- ・ 様々な団体が集まった協同組合ネットができたことで、市民、学生、様々な人を対象にしたイベントができるというのがすごいと思いました。
- ・ 各協同組合のことを知る交流の場があればいいと思いました。

#### ■ 共同の力で実現する上で、大事だと思う事

- ・ お互いの立場、組織を知り、対等の場での話しあい。すぐにはわかりあえなくても話し合う場の設定の継続。/トップの話し合い。/まずはネットワークを作る一点での一致。
- ・ 相互的にどのような目的で連携しているのかを把握し、目的が組合員の層が一致している所とマッチングさせると上手く進むのではと思った。
- ・ 無理のない範囲で連携、協同すること。
- ・ ひとつひとつそれぞれの生協が単独で企画をはれるとしても、皆で一つの事に取り組めば、もっと大きな事業ができると思いました。
- ・ 各生協を同じテーブルにつかせるキッカケづくり。
- ・ 顔の見えるコミュニケーションとリーダーシップを発揮しながら引っぱっていける人。/「まずやってみよう」と思いが強いこと。/事業をする上での少なからずスポンサー、予算。
- ・ まずは、他の生協さんと近づけるようになりたい。/是非、JAさんの健康チェックに参加してみたい。
- ・ たくさん他団体とのつながりで何かを開催できたらいいと思いました。
- ・ 連携とやってみること。
- ・ 今できていることを、もっと横に広げていければ…
- ・ 連携が大事だと思うし、「参加」大事。/情報発信と参加
- ・ お互いの組織を知ることが大事だと思います。



国際協同組合年

#### ■ 国際協同組合年に寄せる想い

- ・ 北海道のカレーパン1万個売れるといいですね！これだけすすんだ資本主義の中で、協同組織が単独で生き残るのは至難のわざです。それこそ協同して、立ち向かっていかななくてはかてません。生協組織関係だけでも、もっともっとお互いに助け合えたらいいのにと思います。
- ・ 協同組合同士で手を取りあい活動の幅を広げたい。
- ・ 協同組合同士の連携をさらに強化し、色々なことに取り組みたい。
- ・ 皆で、協同組合は、こんなに私たちの暮らしに関わっているという事をお知らせする年になればいいと思いました。
- ・ 生協交流の場を作りたい。
- ・ まずは何かをやってみる。一步踏み出したいと思いました。
- ・ 協同の力で生協連の組織を結束して何かをできればいいなと、そういう年になってほしい。